

農作業を通じて 自らの強みを発見

野菜づくりから仕事に近づく 働きながら、働くことを学ぶ14週間

京都若者サポートステーション 総括コーディネーター 松山 廉

京都若者サポートステーションと京都市北青少年活動センターでは、農業を使った就労体験プログラムを行っています。

週3回、京都市左京区岩倉の長谷八幡近くにある500平方メートル(約150坪)の農場で野菜を作り、週1回の研修で販売計画を立て、参加者自ら販売します。そして利益をシェアしようというものです。この一連の就労体験を基に、次のステップ、具体的には就職活動につなげていくことが目標です。

講師は自然農法の体験プログラムを数多く行っている、モリノメグミの川久保雅悦さん。野菜は無農薬・有機

機肥料でつくります。

初日の9月3日は、スケジュールの説明会と初めて出会う参加者同士の顔合わせをしました。参加者は11人。6日からは、農場に出て作業を開始しました。最初は、草刈りと畑の土づくりから行いました。鍬をふるうことが初めての参加者もいて、大変そうでした。

今回は、冬に収穫できる野菜を作ります。この中で面白いのは、ラディッシュです。和名を「はつか大根」といい、名前の通り比較的短期間で収穫できるのが特徴です。他の作物は収穫までに3か月近くかかりますが、すぐにできるので、最初に収穫の楽しさを味わえそうです。参加者の中には、ここで農業を学んで就農を目指したい人もいますが、この体験の大きな目的は「主体性やチャレンジ精神」を学ぶこと。また、



「自らの強み」を見つけることです。この2つは就活にとって大切なキーワードですが、自分の主体性や強みを発見し、表現するのはとても難しいことです。一番良いのは、主体的に活動したことや、強みを見出すことのできた経験をストーリーとして語れるようになることです。

今回のプログラムでは、農作業だけでも大変なのに、販売も行います。しかし、販路は決まっています。自分たちでアイデアを出し合って販路を決定します。そのアイデア一つ一つを検証して、自分たちが「頑張ればできること」を選んで

いき、最後にそのアイデアを行動に移していきます。この一連の体験を通して、強みを見出します。例えば、「私はこの農業のプログラムの中で、自分の得意なネットを使って野菜を売りました」とか「他の参加者からあなたは、いつもしんどい作業を黙々とやっていますよね、といわれました」というような、自分自身を表現するストーリーをいっばいこのプログラムに見出してほしいと思います。

このプログラムには、地域若者サポートというボランティアも参加しています。参加者と一緒に汗をかきながら、彼らの学びを支えています。

このように京都市ユースサービス協会では、農業を使った就労支援を始めました。11月末には野菜が収穫されて、12月には参加者の手で販売が行われる予定としています。



事業の趣旨・目的

就労に近く、より厳しさを伴った体験を行い、やり遂げたなかで生み出される自らの「強み」や自主的な働き方の体験を通じ、自信を持って次の就労に向かっていくことを目指す訓練の場を作る。

- 野菜を作り、販売し、その利益を参加者でシェアすることで、働くことの一連の動きを体験。
- 参加者が自ら販売計画を立て、販売することで、主体性やチャレンジ精神を学ぶ。
- 開始時刻を朝にすることで生活のリズムを整える。
- 14週間の研修をやり遂げることで、達成感を感じる。

事業内容

〈週間スケジュール〉

曜日	月	火	水	木	金	土	日
	(農作業予備日)	農作業	休み	農作業	研修	農作業	販売等を行う

- 時間は午前9時～12時で設定。
- 月曜日の農作業は状況に応じて検討する。
- 農作業には農業に関する座学も含む。講師は農作業と同じく川久保雅悦さん。

